

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<1>

プロローグ

【あいさつ】

読者の皆様、新年明けましておめでとございませす。希望に満ちた輝かしい新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

さて私は、今年二年、防災、特に南海地震対策について皆様と一緒に考えていくことになりました。香川県防災局・防災対策主幹の乃田と申します。経歴はプロフィールに示すとおり

ですが、自衛官時代の95(平成7)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災に際し、部隊長として約100日間にわたり災害派遣活動に従事した経験があり、その時の体験や教訓を交えながら進めて行きたいと思ひます。

【今後のテーマの進め方】
まず導入として、危機管理の概念についてお話しした後、危機管理や防災を考える際の手順に沿って、次のように進めてまいります。ご期待いただきま

【危機管理の概念】
日本人には、自分の都合の悪い事に対しては、「縁起でも



歳。防衛大学

校卒。71年、陸上自衛隊入隊。第7施設群長(京都・大久保)時代の95年1月、阪神大震災で部隊を指揮し災害派遣活動に従事。このほか、火

山噴火、山林火災、風水害に伴う災害派遣を経験。04年4月、陸上自衛隊を陸将補で退官し、香川県庁入り。防災・危機管理や地震対策、国民保護などに関する業務を担当する傍ら、県民の防災意識の啓発のための講演を続けている。

事を都合のいい方にとらえる人間の習性を災害は突いてくるのです。

あなたの危機管理(防災)意識はいかがでしょうか?

危機管理を要約しますと、まず「起こつて欲しくないこと、起こつては困ることから目をそらさない」こと。そして、「万が一起きた場合には、どのように対処するのか、またそうならないために、常日頃からどうしておかなければならないか、ということを考え、それに備えておくこと」です。

【次号のテーマ】
次号からいよいよ本題に入ります。 「知る(防災に関する知識を持つ)」ことのうち、「地震発生メカニズム」について、お話しいたします。

すとともに、長丁場になりませんが、よろしくお願ひいたしませす。

「考えたくない」「避けて通る」といった傾向が見られませす。

① 知る(防災に関する知識を持つ)
② 意識する(関心を防災意識まで高める)
③ 実行する(備えを実行する)

私が県内各地で講演中、「南海地震発生の確率は、この先30年のうちに約50%、50年のうちに約80%」と説明すると、『30年後、逆に半分の確率で平穏。50年後、きっともう私は生きていない。だから...』といった意見がよく返つて来ませす。物